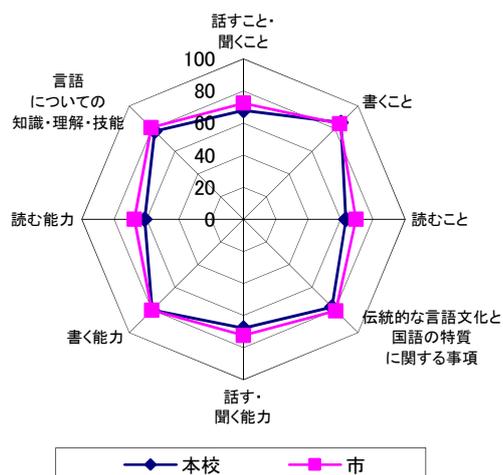


宇都宮市立若松原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	67.9	72.4	70.5
	書くこと	85.2	84.1	70.0
	読むこと	63.3	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.3	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	67.9	72.4	70.5
	書く能力	80.1	80.2	68.0
	読む能力	61.1	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	77.6	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

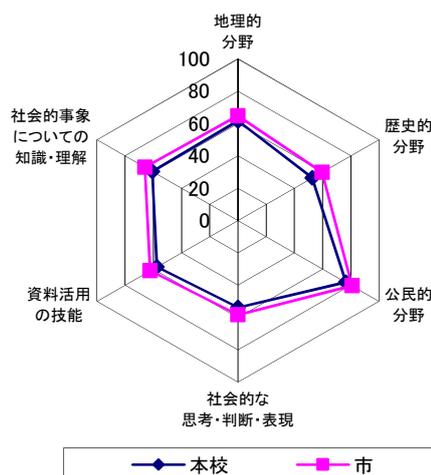
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●「話すこと・聞くこと」の正答率は、67.9%で、市の平均を4.5ポイント下回る。 ○話の内容を正確に聞き取る設問の正答率は96.0%で、市の平均を3.2ポイント上回る。 ●司会者の役割を記述する問題の正答率は68.2%で、市の平均を8.0ポイント下回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で取り組んでいる「1分間スピーチ」を継続して実施し、話す力の向上を図る。 ・話し合い活動において、「意見を整理する」「話題を変える」「争点を確認する」などの司会者の役割をマニュアル化し、意識させる。 ・聞き取りテストを実施し、メモの取り方や聞く時のポイントを指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」の正答率は、85.2%で、市の平均を1.1ポイント上回る。 ○「書くこと」に関する5つの設問すべての正答率で、市の平均と同程度もしくは上回る。全教科・領域での言語活動への取組や、全校で取り組んでいる視写の成果が上がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で取り組んでいる「視写」が効果を上げている。継続して実施し、書く力の向上を図る。 ・場面を設定し、適切な文章を書かせる指導を取り入れる。 ・定期テストや単元末テストに取り入れてきた「短作文」を継続する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●「読むこと」の正答率は63.3%で、市の平均を6.2ポイント下回る。参考値との比較では、-0.8ポイントであった。 ○説明文の内容を捉える問題では、正答率が68.7%で参考値を4.6ポイント上回る。 ○文学的文章の特徴を捉える問題の正答率は、75.1%で「読むこと」の設問で、最も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の展開を捉える力をつけるために、読み取りを行う際には、接続する言葉に着目させ、段落間の関係を考えさせる。 ・読み取ったことを、文章中の言葉だけでなく、自分の言葉に置き換えてノートに整理させる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○「漢字の読み」の正答率は、市の平均を上回る。また、「対義語の理解」の正答率は、89.6%で、市の平均を1.0ポイント上回る。 ●「用言の活用(正答率31.3%、市との差-13.3)」や「品詞の分類(正答率51.2%、市との差-10.3)」など文法の理解では、市の平均を大きく下回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字の読み書き」に関しては、視写を含めた書く活動において、文章中の漢字の読み書きをさせる。また、漢字についてはコンクールを実施するなど、強化を図る。 ・文法などの「言葉の知識」については、小テストを通して繰り返し学習させ、定着を図る。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.7	64.8	54.5
	歴史的分野	52.8	59.7	52.2
	公民的分野	76.5	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	53.8	58.3	49.5
	資料活用の技能	57.5	62.2	53.1
	社会的事象についての知識・理解	60.7	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

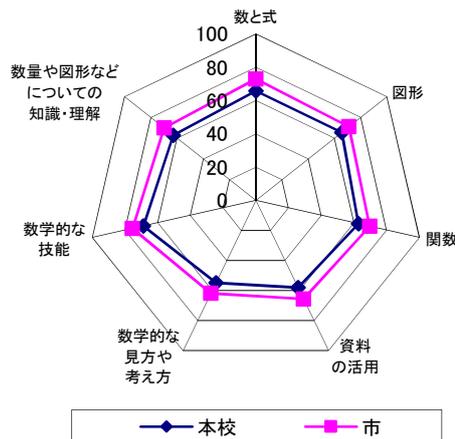
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市の平均値を下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。 ○日本の諸地域、日本の人口分布の特色に関する資料活用の問題は市の平均を上回った。 ●様々な世界地図、世界の州区分の特色についての知識や技能を問われる問題についての正答率は、市平均、参考値いずれとの比較でも下回る結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りに関しては、今後も複数の資料を比較しながら読み取らせ、考察させる活動を継続して行っていく。 知識・理解の観点については、授業ごと、単元ごとに振り返りを行わせ、復習に重点を置いて知識の定着を図っていく。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、3つの領域の中で最も低い。市の平均値を下回るものの、参考値の正答率を上回る結果となった。 ○田沼意次と松平定信の政策に関する資料活用についての問題は市の平均正答率を上回った。 ●古代までの日本についての問題で、全体的に平均正答率が低い。特に、飛鳥・平安時代の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生の既習事項の理解が不十分である。特に古代・中世の内容については、定期的に復習テストなどを行って、知識の定着を図っていく。 複数の資料からの読み取りを苦手としている生徒が多いため、一つ一つの資料からの読み取りを丁寧に行い、それらを考察する作業を学習活動に積極的に取り入れていく。
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は3つの領域の中で一番高い。市の平均値は下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。 ○私たちの生活と現代社会についての問題は平均正答率が90%を上回った。 ●効率と公正の判断基準についての問題では、市平均・参考値ともに正答率が下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、現代社会を大観させながら、日本の政治・経済について考察させる学習活動を継続していく。特に、政治・経済の本質となる「効率と公正」という考え方については、事例を用いながら、重点的に学習に取り組みさせていく。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	65.8	73.0	67.5
	図形	65.6	71.1	59.5
	関数	62.7	69.7	60.0
	資料の活用	58.1	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	54.8	61.8	49.6
	数学的な技能	68.7	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	62.9	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

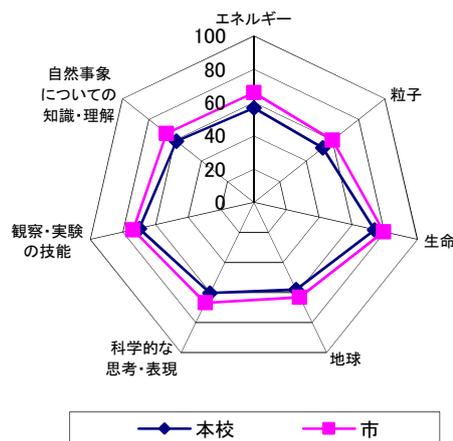
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は市平均、参考値をとともに下回っている。</p> <p>○正負の数の計算、展開や因数分解など基本的な計算については、市の平均と同程度の正答率となっている。</p> <p>●平方根の大小関係や、有理化、平方根を利用した2次方程式など単元全体を通して課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正負の数や式の計算については、3年間を通して繰り返し学習させたり、T2を活用し、個別に対応したりしたため、定着が見られた。 ・平方根の単元については、T2の活用や補強プリントの実施などで学習内容の定着を図った。繰り返し学習することで、調査後に内容を身につけた生徒も多くいた。今後も、個に応じた指導の充実を図る。
図形	<p>平均正答率は市平均を下回るものの、参考値より6ポイント以上高い。</p> <p>○証明以外の問題については、市の平均と同程度の正答率である。</p> <p>●問題文から、図形の特徴や仮定を読み取り、証明をすることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業においてICTを活用して視覚的に図を捉えさせたり、生徒自身が操作できる教材を用いたりし、学習内容定着に努めた。今後も実施していく。 ・式の計算や関数の領域にも関わることであるが、問題文を読み取ることに課題があり、立式することや証明することを苦手とする生徒がいる。T2や個別対応などで、課題を解決していく。
関数	<p>平均正答率は市平均を下回るものの、参考値より2ポイント以上高い。</p> <p>○比例や1次関数については、市の平均との差は小さく、式や表、グラフの関係が理解できている生徒が多い。</p> <p>●1次関数と2乗に比例する関数の変化の求め方に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・式の求め方や表の見方などについては、定着している生徒が多かったため、今後も授業で、繰り返し学習させる。 ・さらなる基本的な学習内容の定着のために、「傾き」や「変化の割合」といった言葉の意味を理解させ、比例、反比例、1次関数、2乗に比例する関数のちがいや、共通点などについて、指導の充実を図る。
資料の活用	<p>平均正答率は市平均を下回るものの、参考値と同程度である。</p> <p>○問題解決のためにどの代表値を使うか、また資料の見方の適切な説明については、市平均との差は小さく、参考値よりも正答率が高い。</p> <p>●相対度数の求め方、度数分布表を用いた平均値の求め方など基本的な内容に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の扱い方や説明の仕方については、他の単元においても、記述して考えさせる時間をとり、授業を進めた成果がでている。今後も計算だけでなく、自分の考えを記述させ、判断させる活動を積極的に取り入れる。 ・基本的な用語と計算の仕方について、課題があるため、前学年までの単元について、復習をする機会を設け、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	56.8	66.1	56.4
	粒子	52.6	60.0	57.4
	生命	73.9	79.4	75.2
	地球	58.1	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	60.3	66.8	57.2
	観察・実験の技能	70.0	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	59.0	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

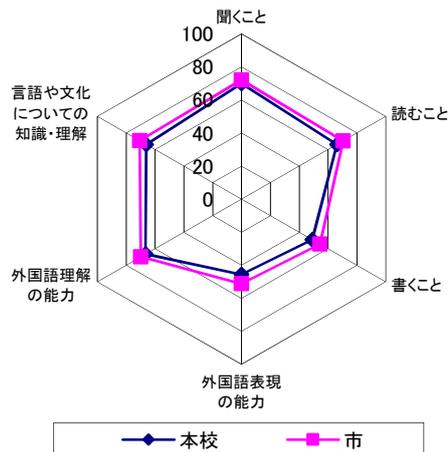
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○市の平均値は下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。</p> <p>○弦を張る強さと、音の高さの関係を調べる実験や、コイルと検流計の振れ方の関係を調べる実験についての出題において、参考値の平均点を上回る正答率である。</p> <p>●「電流の向きを逆にする条件」や「台車の速さを求める」といった問題で、正答率がやや低い傾向にある。</p>	<p>・授業の中で、実験をしたうえで、その実験値が、どのような意味を示しているのか、理解し、活用するような授業を重点的に行う。</p> <p>・科学的思考を高めるために、条件設定を決めながら、繰り返し実験を行い、結果から判断することを意識した授業を展開する。</p>
粒子	<p>●市、参考値のいずれの平均値とも比較でも、下回る結果となった。特に、「水溶液とイオン」についての理解が、大きく下回っている。</p> <p>○「ピーカーのようすと水の温度変化」といった、知識を活用する出題や、「還元の化学変化」について例を指摘する問題では、参考値の平均点を上回った。</p>	<p>・実験から実験の現象を確認するだけでなく、それがどのようなものかを理解できるような授業展開をしていく。特に、目で見えないものをイメージできるようにICT等を活用する。</p> <p>・化学反応式やイオン式などの名前をしっかりと覚えらるるよう、練習問題を行い知識の定着ができるようにする。</p>
生命	<p>●市、参考値の平均値とも下回る結果となった。特に、「生物の成長と生殖」についての理解がやや下回っている。</p> <p>○「裸子植物と被子植物の胚珠のつくりのちがい」や「受精について」の知識理解についての問題では、参考値よりも正答率が高い。</p>	<p>・肉眼では見ることの出来ない、小さな現象を、顕微鏡やICTを使った画像や、映像資料を利用して、よりイメージしやすい授業を展開する。</p>
地球	<p>○市の平均値は下回るものの、参考値の正答率を上回る結果となった。「日本の気象」や「地層」についての問題では参考値の正答率をすべて上回った。</p> <p>●「地層」や「日本の気象」において、複数の資料から考えられることを指摘する問題に関しては、市の正答率を下回った。</p>	<p>・地層の種類や天気の特徴や天気図の意味が理解できることはもちろん、それぞれの特徴を組み合わせ、地層の成り立ちや天気の現象などを考える練習を多く行えるように授業を展開する。</p>

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	70.0	72.2	67.8
	読むこと	66.1	70.5	70.4
	書くこと	49.1	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	45.6	51.2	49.2
	外国語理解の能力	66.6	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	66.1	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○「聞くこと」の正答率は70.0%で、参考値との比較で+2.2ポイントであった。</p> <p>○市の平均を下回るものの、ALTとのチームティーチングで英語を聞いたり、通常の授業でもなるべく英語で授業を進めたりした成果が表れている。</p> <p>●「対話文の応答」のリスニングの正答率が低い。</p>	<p>・授業での英語の使用率を上げて、英語の音声に慣れるようにする。</p> <p>・授業の中で、英語を聞く時に、音のつながりも意識しながら、聞き取りのポイントを示して、理解を深めていく。</p>
読むこと	<p>●「読むこと」の正答率は66.1%で、参考値との比較で-4.3ポイントであった。</p> <p>○「語形・語法の知識・理解」は比較的正答率が高く、文法が身に付いてきている。</p> <p>●特に「長文の読み取り」の問題で正答率が低い。</p>	<p>・予習や復習を徹底させ、自分で本文の内容を読解していく力をつけていく。</p> <p>・授業の中で、T-FやQ&Aなどの問題、本文穴埋め問題に取り組み、理解できるように工夫していく。</p>
書くこと	<p>●平均正答率は、他の領域より低く、最も苦手な領域と言える。市の平均を下回っている。</p> <p>○「単語の並べかえによる英作文」は、比較的正答率が高く、語順が身に付いてきている。</p> <p>●「3文以上の英作文」の正答率が低く、自分のことについて正しい単語や文法で表現することを苦手としている生徒が多い。</p>	<p>・授業の中でも自分の考えを英語で伝えたり、書いたりする活動を多く取り入れる。</p> <p>・単語テストを定期的に行い、語彙力を付けていく。</p> <p>・チームティーチングで、書くことについて個別に指導する。</p>

宇都宮市立若松原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努める。	○思考力・判断力・表現力を育み、主体的・対話的で深い学びを実現させる活用・探究型授業への改善と職員研修の充実。	○「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」の教職員評価は97.9%で前年比2.1ポイント下降した。また、生徒評価は88.5%で前年比3.7ポイント上昇した。
○学力の定着のために、家庭学習の習慣化と質の向上を図る。	○自主学習ノート(チャレンジノート)等による家庭学習の習慣化を図る指導。 ○学力の定着と家庭学習を習慣化させるために効果的な宿題の出し方の工夫。	○12月に実施した家庭学習時間のアンケートの結果は以下の通りだった。 ・1年(1.5時間以上) (前年度比) 平日45.2%(-10.4) 休日52.3%(+6.0) ・2年(2.0時間以上) 平日26.0%(+3.7) 休日35.8%(+15.4) ・3年(2.5時間以上) 平日56.7%(+4.2) 休日75.5%(+6.4) 全体的に家庭学習時間は向上した。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

今年度の学習状況調査(国・県・市)の調査結果を踏まえて、本校の課題を次のように整理した。

- ・学力に格差があり、見通しを立てて、課題に粘り強く取り組むことができない。
- ・家庭学習時間の向上は見られるものの、十分な学力の定着は図れていない。

以上を踏まえ、次年度の重点目標を次の3つとした。

- ・ICT機器の利点を生かし主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。
- ・生徒の学習意欲の向上を図るための教材、教具の工夫改善に努める。
- ・学力の定着のために家庭学習の習慣化と質の向上を図る。